

- 平成28年度男女イキイキ企業表彰 ..... 1  
この数字ってなに? 「10.2%」..... 1
- 特集 もしも今、災害が起きたらどうしますか?!  
男女共同参画の視点で災害への備えを考える!.....2・3
- 「アマランスフェスタ2016」を開催しました!..... 4

# 長崎市 男女共同参画推進特集号

# 「アマランスフェスタ2016」を開催しました!

長崎市では、10月1日からの1週間は長崎市男女共同参画推進条例の施行を記念して「長崎市パートナーシップ推進週間」とし、「アマランスフェスタ」を毎年開催しています。今年は、10月1日と2日の2日間にわたり、「アマランスフェスタ2016」を開催し、延べ978人の皆様にご来場いただきました。

**10/1 (土)**  
1日目は、男女共同参画推進センター アマランスの利用登録団体や男女共同参画推進事業ボランティア等の企画・運営による講座、パネル展示のほか、行政相談、イキイキ健康チェックなど多彩な催しを開催しました。その中で「つくろう 親子のいい関係!!」では、「子育てを考える良い機会になった」「主人にも遊びの大切さを知ってもらえる機会ができてうれしい」「毎日の育児の悩みが少し楽になった」などの感想をいただきました。また、「健康体操～さわやかストレッチ～」では、「毎日の体操が大切だと分かった」「生活のなかで楽しく続けたい」などの感想が寄せられ、みなさんに楽しんでいただけた催しとなりました。

## 平成28年度男女イキイキ企業表彰

性別にかかわらず、誰もが働きやすい環境づくりを実践し、働く人も会社もイキイキとした事業所を「男女イキイキ企業」として毎年アマランスフェスタで表彰式を行っています。今年は長崎市管工業協同組合と、不動技研工業株式会社の2社が受賞しました!

今回受賞した2社の取り組みについては、長崎市男女共同参画推進センターアマランス内にパネル展示のほか、市役所ホームページでも紹介しています。ぜひ、ご覧ください!!



(左から)長崎市管工業協同組合の岩永理事長、田上市長、不動技研工業株式会社の濱本代表取締役社長

### 長崎市管工業協同組合 (長崎市古町)

#### ここがイキイキ!

##### ★子ども休暇の創設

正規・非正規にかかわらず、全職員が子の看護、学校行事(授業参観、PTA活動など)、地域の子ども関連行事などに参加する場合に取得できる有給休暇「子ども休暇」を創設。

##### ★子の看護休暇の取得要件の緩和

子の看護休暇の要件を取得しやすいように「採用後6月経過後」から「採用直後」に緩和。

##### ★介護短時間勤務制度の導入

要介護状態にある家族を介護する必要があるとき、所定労働時間を短縮できる介護短時間勤務制度を導入し、仕事と介護の両立を支援。



職場環境点検の様子

ほかに、安全衛生委員会による各職場の巡視を行うなど、職員の働きやすい職場環境づくりに取り組んでいます。

### 不動技研工業株式会社 (長崎市鮎の浦町)

#### ここがイキイキ!

##### ★女性活躍推進プロジェクトの立ち上げ

女性の活躍を推進することを目的に、女性活躍推進プロジェクトを立ち上げ、管理職に対する研修や女性社員に対するキャリアアップ研修を今年度実施予定。

##### ★休業者の職場復帰の支援

職場復帰後の育児短時間勤務制度の対象期間延長など、休業者の職場復帰への積極的な支援により、休業者の職場復帰率100%。

##### ★柔軟な勤務制度の導入

就労時間を月単位で管理するフレックスタイム制度を導入。また、連続休暇取得促進のための計画年休やフレックスホリデーを実施。



ファミリーデー(名刺交換体験)の様子

ほかに、社員の子どもを対象にした職場見学「ファミリーデー」を実施するなど、社員のワーク・ライフ・バランスの支援に取り組んでいます。

この数字ってなに?

# 10.2%

◆長崎市防災会議における女性委員の割合◆

「10.2%」これが何の数字か、わかりますか? これは長崎市の防災会議における委員に占める女性の割合です(平成28年4月1日現在)。49人の委員のうち、女性委員は5人だけです。

防災や災害・復興時において、女性の視点を取り入れることはとても重要です。

今回の特集テーマでは、男女共同参画の視点で災害への備えを考えていますが、今後はもっと女性委員が増えて、防災計画などに女性の視点ならではの要望や意見が反映されるようになるといいですね。

#### イキイキ健康チェック



#### 長崎の女性団体によるバザー



#### つくろう 親子のいい関係!!



#### おりがみ教室



#### 健康体操 ～さわやかストレッチ～



#### パパママのためのベビーマッサージ



10/2 (日)

2日目は、会場をメルカつまちの市民生活プラザホールに移して、「男女イキイキ企業表彰」(詳しくは1ページで!)と詩人で社会学者の水無田 気流(みなした きりう)さんの基調講演「『居場所』のない男、「時間」がない女～自分があった生き方を探して～」を行いました。

講演では、過去のテレビコマーシャルやグラフなどの資料をもとに、これまでの「男は仕事、女は家庭」という性別役割により、今、男性、女性にそれぞれ起こっている問題について分かりやすく解説していただき、これから女性を企業のメンバーにするためには、男性を地域社会のメンバーにすることが必要であることを語られました。

参加者アンケートでは、「盛りだくさんで分かりやすく、色々考えさせられる点もあり、家庭内でも話してみたい」「男女が同じことを共有することがそれぞれの幸福度に繋がるのかなと感じた」「自分自身の今後のライフスタイルを見直すきっかけになりました」などの感想が寄せられました。

「『居場所』のない男、「時間」がない女」



講師：水無田 気流さん

【編集後記】「は??男女共同参画ってなんですか?」4月の人事異動で私が発した一言。「どうして私が・・・」と思いつつも、半年過ぎて少しだけ分かったことは、「もしも、自分が相手の立場だったら?」とちょっとだけ想像力を働かせて行動することが大切だということ。「男女共同参画」って難しく考えがちだけど、日常生活で男女がお互いに思いやりをもって行動する小さな積み重ねが男女共同参画につながっていくのではないかと思います。(松)

発行■平成28年12月 編集■長崎市民生活部人権男女共同参画室  
〒850-0874 長崎市魚の町5番1号 TEL 095(826)0026 FAX 095(826)0062  
ホームページアドレス■<http://www.city.nagasaki.lg.jp/shimin/190000/193000/p000374.html>  
E-mailアドレス■[jinkendanjo@city.nagasaki.lg.jp](mailto:jinkendanjo@city.nagasaki.lg.jp)



今年の4月に熊本地震が起きました。地震や風水害などの自然災害はいつ起こるか分かりません。もし、今、災害が起これ避難生活を送ることになったとしたら、わたしたちはどうすればよいのでしょうか? また、いつ起こるか分からない災害に対して、日常生活でどのように備えておけばよいのでしょうか? 今回の特集では、特に女性の視点から災害時の安全・安心な避難生活と、日常生活での災害への備えについて考えてみました。

災害時の避難所生活では  
いろいろな問題がおこります

～ 災害時は平時より性別役割分担の意識が強くなる傾向があります ～

一人暮らしだったので、避難所生活では周りは知らない人ばかり。さらに共同生活になるので男性もいて、とっても不安・・・

こどもが泣くので周りの人の迷惑になっていないかが心配・・・あかちゃんに授乳する場所もなくなってどうしたらいいの?

避難所に洗濯物干し場はあったけれど、恥ずかしくて下着が干せなかった

避難所で「女性だから」と当然のように食事づくりや片付けを割り当てられたけれど責任者が男性ばかりでなにも言えなかった

生理用品が欲しかったけれど、男性スタッフが配布していたので、恥ずかしくて受け取りにいけなかった

性暴力やDV（ドメスティック・バイオレンス\*）の被害にあってしまった

\*ドメスティック・バイオレンスとは配偶者や恋人など親密な関係にある、又はあった者から振るわれる暴力のことをいいます。

男女のニーズなどの違いを把握して  
対応することが大切です

避難所の環境について

- 女性が安心して使えるように男女別の更衣室や女性専用の物干し場、女性専用スペースを設置しましょう。
- 単身女性や女性のみの子世帯、乳幼児のいる世帯など被災者の状況に応じて、間仕切り用パーテーション等を活用して居住エリアを設定するなど、安全・安心な空間を確保しましょう。
- 乳幼児のいる世帯のために、授乳室や育児スペースを設置しましょう。



避難所の運営について

- 避難所の運営には男性と女性の責任者を配置して、みんなが意見や要望を言いやすい環境をつくりましょう。
- 避難所の仕事(食事づくり・片付け、清掃、ゴミの処理、力仕事など)は男性、女性にかかわらず、できる人が分担し、特定の人ばかりに負担がかからないようにしましょう。
- 女性用品(生理用品や下着)は女性スタッフが配布するなどの配慮をしましょう。
- DV防止の啓発ポスターの掲示や、女子トイレや女性専用スペースに相談窓口案内カードを設置し、女性に対する暴力等に対する相談窓口の周知を図りましょう。

男女共同参画の視点で考える  
日頃からの災害への備えとは?

家庭で(自助)

- 個人や家族それぞれの状況に応じた非常持出品、備蓄品を準備しておきましょう。
- 普段できないことは、災害時にはもっとできないものです。日頃から家事や育児、介護などは家族みんなで分担して支えあいましょう。

地域で(共助)

- 日頃から自治会などの地域活動への女性の参画を促進し、男女がともに支え合う地域づくりに努めましょう。
- 誰もが災害対応にあたることできるように、自治会の防災訓練や学習会などには、性別や年齢にかかわらず積極的に参加しましょう。



行政で(公助)

- 地域の防災計画や復興計画に男女共同参画の視点を取り入れるため、防災会議における女性委員の割合を高めましょう。

ポイント!

日頃から、家庭や地域などで男女共同参画を進めておくことが、災害時の安全・安心につながります



●非常持出品や備蓄品を準備しておきましょう

- 非常食（乾パン・缶詰など火を通さずに食べられるもの）
- 貴重品（現金〔硬貨も忘れずに〕、預金通帳、印鑑、保険証、免許証など）
- 水（ペットボトル入りのものが便利）
- 医薬品（傷薬、絆創膏、包帯、風邪薬、常備薬など）
- 懐中電灯（できれば人数分。予備の電池は多めに）
- ラジオ（FM・AM両方を受信できる小型のもの）



●これもなくて大丈夫? それぞれのニーズにあわせて考えてみましょう

- ★女性なら ⇒ 生理用品 サニタリーショーツ おりものシート 下着 中身の見えないゴミ袋 など
- ★乳幼児がいるなら ⇒ 粉ミルク アレルギー用ミルク 哺乳瓶 離乳食 子ども用紙おむつ ウェットティッシュ・おしり拭き アレルギー対応食 など
- ★高齢者がいるなら ⇒ 成人用おむつ 尿もれパッド お薬手帳 ウェットティッシュ・おしり拭き など

